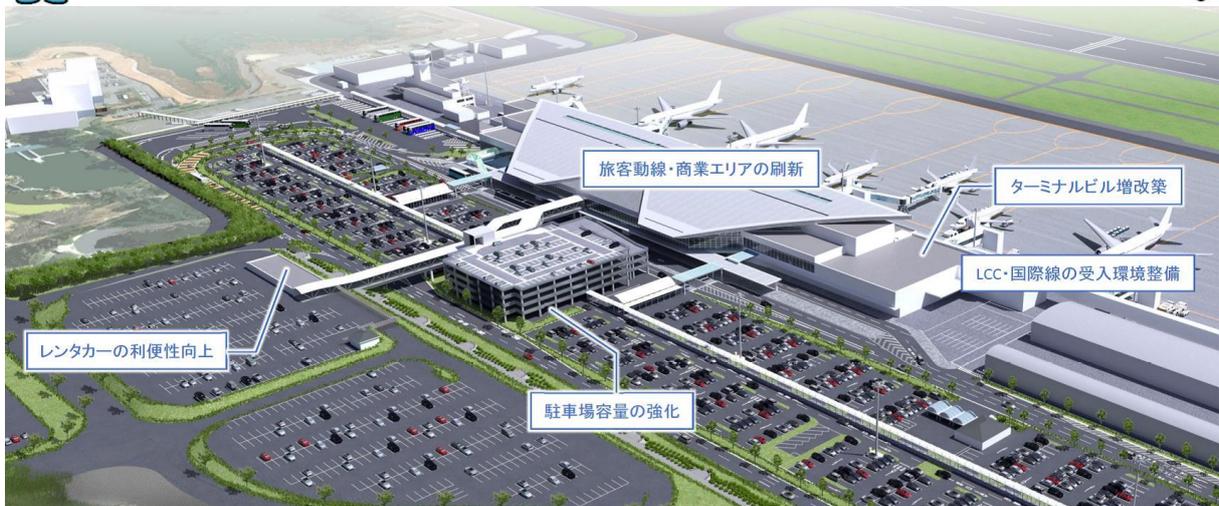


広島空港 **i** スクエア通信

不定期号 第36号（令和3年3月24日）
（発行：広島県空港振興課）

～広島空港の将来ビジョン～



（目次）

■ まえがき	2
■ トピック	3
・ 広島国際空港株式会社 中村代表取締役社長の御挨拶	3
・ 令和2年度 空港経営改革の進捗	5
・ これからの広島空港	7
・ 八天堂ビレッジ	10
・ 広島空港 空港経営改革ガイド	12
・ 木原道路開通	12
■ 編集後記	13

■ まえがき

広島空港①スクエア通信は、令和2年3月以来、約1年ぶりの発行となりました。この1年間で空港経営改革は大詰めを迎え、新しい体制での広島空港の運営開始は、いよいよ目前に迫っています。

これまで、広島空港①スクエア通信では、広島空港特定運営事業の公募選定に参加する事業者をはじめとする広島空港に関連する企業等へ向け、広島空港に対する認識を深めていただき、空港経営改革の推進を後押しするために、発信していました。

そのため、広島空港①スクエア通信の今回号では、この1年の総括とともに、ターニングポイントを迎えている広島空港について、情報発信してまいります。

■ トピック

広島国際空港株式会社 中村代表取締役社長の御挨拶

広島国際空港株式会社の中村です。昨年11月の当社設立と前後して、広島へまいりました。出身会社は三井不動産、生まれは福岡です。このたびご縁ができた広島、そして中四国エリアのさらなる発展のためにしっかり汗を流す所存です。



中村康浩 代表取締役社長

まず、当社の設立の背景を簡単にご説明いたします。当社の前身であるMTHSコンソーシアムは広島空港特定運営事業の運営権取得を目指して組成されたもので、先行する民営化空港の運営実績がある三井不動産と東急、地域経済と一体不可分といえる地元有力企業、さらにグローバルな活動基盤を有する住友商事を含む16社で構成されていました。いま各社は株主として人材面、財務面、事業面の各方面で支援をしており、当社はその支援を受けながら、いままさに離陸しようとしているところであります。

新型コロナの影響による非常に厳しい状況での離陸になりますが、ここに至る過程においても厳しい状況を乗り越えてきました。昨年の運営権者選定に至る一連のスケジュールが新型コロナ感染拡大の影響により3カ月後ろ倒しになり、7月の提案書の提出に向けての作業をリモートワークで行うことを強いられました。新型コロナの状況が全く好転しない状況で提案内容をまとめることになったため、いずれにしても事業は厳しいスタートになるであろうことは予想されましたが、広島空港が持つポテンシャルに対するコンソーシアム構成員の評価と思いが変わることはありませんでした。7月に予定通り提案書を提出、9月に優先交渉権者に選定され10月に国と協定書を締結、11月には広島国際空港株式会社を設立し、12月に実施契約を締結しました。

そして、今年2月に当社は広島空港ビルディング株式会社の全株式を取得して空港ビル施設事業を開始しています。4月に同社と合併し、7月の滑走路を含めた完全民営化にむけて全社員一丸となり準備を進めてまいります。

私どもが描く将来の広島空港の姿は、提案概要に概略を記載していますが、その内容は、広島を中心とした中四国エリアの力強い経済力と豊富な観光コンテンツを背景に国内外の路線を拡充、中四国で唯一無二の航空ネットワークを構築し、インバウンドおよびアウトバウンド需要を創造・獲得するというものです。

もともと中四国エリアには年間1400万人近い旅行需要が存在します。この需要を航空需要として取り込むためには、中四国そのものを目的地とし、広島空港を起終点とした旅行需要を創造する様々な施策を講じる必要があります。

エアライン、あるいは、その先の潜在顧客に対し地域の魅力をしっかりと伝え、需要を掘り起こして新規就航を実現し、一方で顧客のニーズを地域へフィードバックし、地域と連携して利用促進を図り増便を促します。また、顧客に、より快適な空間を提供できるような施設改修を進めます。これらの施策により空港利用客の飛躍的な拡大を目指すものです。

足元の新型コロナの状況は、いまだに一進一退を繰り返しており、現在の空港の風景は寂しい限りですが、コロナと共生する社会づくり、ワクチンの開発など新型コロナへの対策は、1歩1歩確実に前へ進んでいます。当社としては、必ず訪れる需要の回復時にいち早く動けるように粛々と準備を進め、30年の事業期間内に新しい広島空港の姿を確実に実現したいと考えています。

いうまでもなく、空港は地域の重要な公共インフラであります。当社自身が地域の重要な公共インフラを、安全安心を最優先として運営し、地域とともに成長する有力企業となることを目指して日々の業務に邁進いたします。今後ともみなさまのご支援ご協力を賜りますよう、なにとぞよろしく願いいたします。

令和2年度 空港経営改革の進捗

令和2年4月 スケジュール変更

令和2年4月、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、広島空港特定運営事業等に係るスケジュールの変更がありました。このことで、優先交渉権者の決定は令和2年6月から令和2年9月になり、空港運営事業開始は令和3年4月から令和3年7月となるなど、全体スケジュールが3か月後ろ倒しになりました。

令和2年9月 優先交渉権者の選定

令和2年9月11日、国土交通省は、広島空港特定運営事業等の優先交渉権者として、MTHSコンソーシアムを選定しました。

MTHS コンソーシアム

代表企業 : 三井不動産株式会社

コンソーシアム構成員 : 東急株式会社
株式会社広島銀行
ひろぎんキャピタルパートナーズ株式会社
広島電鉄株式会社
九州電力株式会社
中国電力株式会社
株式会社中電工
株式会社エネルギー・コミュニケーションズ
マツダ株式会社
福山通運株式会社
株式会社広島マツダ
広島ガス株式会社
住友商事株式会社
東急建設株式会社
株式会社東急コミュニティー

国土交通省 航空局 HP

https://www.mlit.go.jp/report/press/kouku05_hh_000159.html

令和2年11月 広島国際空港株式会社の設立

MTHS コンソーシアムは、令和2年11月18日付で特定目的会社である広島国際空港株式会社を設立しました。

さらに、同社は、国土交通省から公共施設等運営権の設定を受け、令和2年12月18日付で広島空港特定運営事業等公共施設等運営権実施契約を締結しました。このことにより、同社が広島空港特定運営事業を実施することが、正式に決定したことになります。

《広島国際空港株式会社の概要》

商号	広島国際空港株式会社
所在地	広島県三原市本郷町善入寺 64 番地 31
設立年月日	令和2年11月18日
代表者	代表取締役 中村 康浩
株主	三井不動産株式会社, 東急株式会社, 株式会社広島銀行, ひろぎんキャピタルパートナーズ株式会社, 広島電鉄株式会社, 九州電力株式会社, 中国電力株式会社, 株式会社中電工, 株式会社エネルギー・コミュニケーションズ, マツダ株式会社, 福山通運株式会社, 株式会社広島マツダ, 広島ガス株式会社, 住友商事株式会社, 東急建設株式会社, 株式会社東急コミュニティー
事業内容	広島空港の運営及びそれに附帯する業務

国土交通省 航空局 HP https://www.mlit.go.jp/koku/koku_tk5_000092.html

広島国際空港株式会社 HP <https://www.hiap.co.jp/>

その他進捗状況

令和3年2月 空港ビル施設等事業の開始

令和3年7月 空港運営事業の開始（予定）

空港施設等の運用

2階 制限エリア



国際線のイメージパース

内際旅客動線と商業エリアの刷新

- 需要拡大に合わせ、段階的に増築
- 搭乗直前まで快適な時間を過ごせるよう、制限エリアの店舗を拡充
- “地域”を訴求するショーケース化
- 免税店の充実・ウォークスルー化

2階 保安検査場



所要時間10分以内
国内線のイメージパース

内際ファストトラベルの推進

- 内際の保安検査場の拡張
- スマートセキュリティの導入による搭乗手続き時間の改善
- デジタル技術やWebを活用した利便性・満足度向上

1階 バス待合スペース

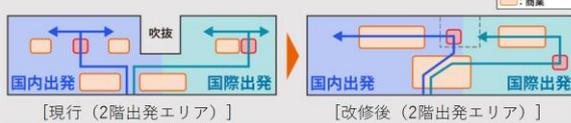


交通機能の強化

- 駐車場容量の増強と多様な利用者のニーズに応える駐車場料金体系
- 国内線・国際線到着エリアの一体化、バス待合スペースの屋内化
- レンタカーステーションの新設

ターミナルビルの改修方針（案）

国内線と国際線を分断する吹抜部の屋内化による「旅客動線の改善」と「到着エリアの内際一体化」



地域連携・地域共生

空港の利用促進・需要創造

利用促進のための連携イメージ



- 発地側におけるデスティネーションマーケティングによる中四国の観光目的地としての認知度向上
- 地域の観光事業者等との連携による中四国周遊需要の創造
- 中四国の法人利用の促進やビジネス需要創造のための「サポーターズ倶楽部」の組成
- 強固な官民連携による地域一丸となったエリアプロモーション・エアラインセールス

地域共生

- 地域共生の専門部署の設置や、周辺地域との従前以上の対話機会
- 地域共生事業の確実な実施と、地域活性化への貢献
- 空港内事業者（グラハン事業者、テナント等）の採用支援・人材定着支援

安全・安心

事業実施体制

- 社長トップを中心に空港関係者が一丸となって安全・保安を確保する体制構築・風土醸成
- 運用関係者を集約した「オペレーションセンター」の設置による情報の一元化と運用の高度化



管制	グラハン
エアライン	CIQ
テナント	委託先
交通機関	自治体

モニタリング

- 「業務執行部門」「社内の独立部門」「社外の専門家等」の3段階のモニタリング体制

《全体方針》

広島空港が「中四国の持続的成長を牽引し続ける圧倒的No.1ゲートウェイ」となる将来ビジョンを掲げ、30年後に航空路線数30路線、年間旅客数586万人と、コロナ禍の現状から大幅に規模拡大を目指して、様々な提案がなされています。

《航空ネットワーク》

航空ネットワークでは、釜山・ホーチミン・マニラ・クアラルンプールなど、東アジア・東南アジアを中心に国際線の大幅な拡充が盛り込まれています。また、ヨーロッパの拠点空港の1つであるヘルシンキへの路線開設も計画されており、これまでにないネットワークが拡がりそうです。

また、国内線においても、従来から就航していた羽田や成田だけでなく、小松・宮崎といった地方路線の就航が提案されて、地方間移動の大幅な利便性向上を見込めそうです。

また、注目すべきは、エアラインマーケティングの「グランドハンドリングの体制・容量強化」です。グランドハンドリングとは、航空機の運航に伴い必要になる空港での地上業務のことで、航空会社から業務を請け負ったグランドハンドリング会社を実施するのが一般的です。仮に、航空会社が増便や路線就航の意向をもっていたとしても、グランドハンドリング会社の受注体制が整わなければ運航は実現しないため、これまで課題の一つとなっていました。路線誘致を行う空港運営権者がグランドハンドリングの強化にも乗り出すことで、路線の拡充に対する好影響を見込むことができます。

《交通アクセス》

航空旅客の増大には、交通アクセスの拡充も欠かせません。将来的に、現在は広島空港からバス路線の運行していない山陰・四国方面へもバス路線を開設する提案となっており、直

行バス路線は17路線まで増やすとしています。さらに、AI オンデマンド交通など、バス以外の交通モードも追加し、空港発着のアクセス手段が多様化することになれば、利便性が大幅に向上すると考えられます。

《空港施設等》

航空旅客数の増大のステップには、空港施設のリニューアルも計画されています。まず注目すべきは、「“地域”を訴求するショーケース化」です。これは、空港で「ご当地感」「広島感」を得られるようなリニューアルを意味し、航空機に乗る直前まで旅情がかきたてられるよう、レイアウトやテナントショップを配置することと考えられます。こうしたことを繰り返し深化させることで、広島空港は単なる旅の通過点ではなくなり、旅の目的の1つにもなり得ます。

他にも、「レンタカーステーションの新設」は、利便性向上が大いに期待できます。現在の空港レンタカーでは、レンタカー会社が個別に、空港に降り立った利用客に車両置場までの送迎や案内を行っています。そのため、利用客はレンタカー会社ごとに異なる貸し渡し場所まで行かねばならず、貸し渡しの時間もかかっています。また、返却場所もレンタカー会社によって異なるために分かり難いことなど、必ずしも便利とは言えない状況にあります。各レンタカー会社が共同で活用できるレンタカーステーションが空港ターミナルビルから近い位置にできれば、貸し渡しや返却が同じ場所で可能となるなど、利用客とレンタカー会社の両方にとって非常に魅力的な計画です。

《地域連携・地域共生》

地域連携・地域共生の提案では、まず、「サポーターズ倶楽部」があります。中四国の法人を会員として取り込み、広島空港を利用しやすい環境を整えることで、需要を定着させるねらいと考えられます。

また、「発地側におけるdestinationマーケティングによる中四国の観光目的地としての認知度向上」の記載があります。これは、航空路線就航先等での観光PR等と考えられますが、広島空港が、交通結節点としての役割だけでなく、地域の魅力の発進基地の役割も担っていることを意味します。

《安全・安心》

安全・安心の提案では、「運用関係者を集約したオペレーションセンターの設置」が計画されています。空港では、航空会社やバス事業者、管制、グランドハンドリング会社など、さまざまな関係者が関わっていますが、これまで一元化したオペレーションセンターがありませんでした。これができることで、トラブル時の速やかな安全確保や、効率的な情報提供が可能になると考えられます。

《まとめ》

広島空港特定運営事業の提案概要を見ていきましたが、共通しているのは、空港が単なる「航空機の発着場所」という役割に留まらず、「地域交流の拠点」という役割を担っているとの考えがベースにあることです。

また、提案概要には、各空港施設が一体的に運用されることで可能になる利便性向上の取組が多く見られますので、これは空港経営改革の成果と言えます。

これから始まる広島国際空港株式会社の運営により、提案が実現し、地域にとって今まで以上に魅力的な施設が提供されることを期待します。

八天堂ビレッジ

広島空港北側で「広島みはら臨空工場」の開業以降、株式会社八天堂が積極的に事業展開を行っている「八天堂ビレッジ」について、紹介していきます。また、「八天堂ビレッジ」では、同社が中心となり設立したDMC(※)で、三原・世羅地域の観光振興を担う「株式会社空・道・港」も活動しており、こちらも要注目です。

◆「空の駅オーチャード」(令和2年10月オープン)

「果樹園」を意味する「オーチャード」と命名しているこの施設は、株式会社空・道・港が運営しています。ここでは、イベント開催や、地元特産品を活用した魅力的な商品をずらりとラインナップさせたお土産などの販売を行っています。もちろん、おススメ商品はフルーツパフェやフルーツサンドなど、果物を使用したスイーツです。「くりーむパンの八天堂」として定番となっているクリームと果物が、見事にマッチした味わいになっています。直近では令和3年2月から「いちごフェア」が開催中であり、多くの人で賑わっています。これからも、月ごとに新たなフェアを開催するとのことで、訪れるたびに違う楽しさを発見できる施設になっています。

「空の駅オーチャード」前にはドームテントが設置されており、購入した商品をこの中で食べられます。中に足を踏み入れると冬でもポカポカとして暖かく、透明で視界を遮るものが無いため開放感に浸ることができます。

また、毎月第一土日には旬の果実をテーマにしたイベント「ツドマル」や、毎週土日にはマルシェが開かれており、楽しいマーケットで地元産品を購入できるほか、地域交流のイベントもしばしば催されています。マルシェやイベントは生産者のPRの場でもあることから、地域活性化にも一役買っています。

このように、飲食施設としての枠を超え、「コト消費」や地域交流の場としての性格も兼ねていることが特徴です。実際に、オープン以来「八天堂ビレッジ」を訪れた人は、ファミリー層を中心に延べ100,000人以上にのぼり、新たな賑わいが創出されています。



空の駅オーチャード 北側



いちごパフェ



フルーツサンド



本気のメロンパン



空の駅オーチャード 南側
ドームテント



空の駅オーチャード 店内

◆「天空カフェ&ファクトリー」(令和2年12月オープン)

「天空カフェ&ファクトリー」は、カフェと大福の工場の一体施設となっており、広島空港を眼下に望む高台からの景色を眺めながら、宮島の人気コーヒー店「伊都岐珈琲」の自家焙煎コーヒーとともに美味しいパン、季節のパスタなどを楽しむことができます。おススメ商品はフレンチトーストメープルナッツで、柔らかい食感とナッツの風味が、クセになる絶妙の味わいとなっています。



天空カフェ&ファクトリー



フレンチトーストメープルナッツ

◆「パンデコの家」(令和3年4月オープン予定)

さらに、令和3年4月には、「パンデコの家」がオープン予定です。ここではパンデコ(装飾を楽しむためのパン)の体験やピザ焼き体験を行う予定です。「パンデコの家」は、株式会社八天堂がクラウドファンディングを活用して立ち上げた初めての施設であり、「食」を通じた「体験」を重視する、「コト消費」が楽しめる空間となります。



パンデコの家 イメージ

次々と拡張されていく食のテーマパーク「八天堂ビレッジ」は、地域密着の観光名所としても発展しています。株式会社空・道・港は、「八天堂ビレッジ」を観光コンテンツ化することで、三原・世羅地域の観光誘客を促進し、経済波及効果を最大化させるよう、事業展開しています。

今後、さらなる拡張計画もあるようですので、ますます楽しい空間となる「八天堂ビレッジ」から目が離せません。



(※) DMC : Destination Management Company 地域の観光資源を通じて、地域と協同し観光地域作りを行う会社
八天堂カフェリエ <https://hattendo.jp/cafe/ie/>
株式会社空・道・港 <https://sora-michi-minato.jp/>

■ 編集後記

早いもので、令和2年度も残すところわずかとなりました。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大が大きく影を落とした1年であり、観光産業をはじめ多くの産業が打撃を受けることとなりました。健康被害を受けた方々にお悔やみ申し上げますとともに、大変な状況下で今も業務に従事している医療関係者等の方々には、厚く感謝申し上げます。

奇しくも、広島空港は「コロナ禍」中において民間による運営体制に移行することとなり、令和2年9月に優先交渉権者が選定され、同年11月には空港運営権者である広島国際空港株式会社が設立されました。しかしながら、「コロナ禍」では、全国の空港で減便・運休が相次ぎ、広島空港も例外ではありませんでした。広島国際空港株式会社が運営を開始する7月には、少しでも好転するよう心から願うとともに、「コロナ禍」からの回復時には、広島県や関係機関と共に力強く前進していけるよう、力を尽くしたいと思います。

どうぞ皆様も、広島空港へのますますの応援をよろしくお願い致します。

広島空港〇スクエア事務局